

「しまね文学散歩」テキスト一覧

島根県立図書館

令和3年3月21日

回数	タイトル	副題	シリーズ名	開催日
1	志賀直哉「赤西蠣太」はなぜ松江藩士か 1			H11.4.18
2	志賀直哉「赤西蠣太」はなぜ松江藩士か 2			H11.5.16
3	志賀直哉「赤西蠣太」はなぜ松江藩士か 3			H11.6.20
4	真山に登る芥川たち 1	井川恭「翡翠記」を読む		H11.7.18
5	真山に登る芥川たち 2	井川恭「翡翠記」を読む		H11.8.22
6	真山に登る芥川たち 3	井川恭「翡翠記」を読む		H11.9.19
7	松江に遊んだ芥川龍之介	「松江連句」を読む		H11.10.17
8	若い日の原石鼎 1	〈野菊〉の句と自選句集『花影』		H11.11.21
9	若い日の原石鼎 2	懸賞小説「木枯」を読む		H11.12.19
10	若い日の原石鼎 3	新年の句・美文「最後の囁き」		H12.1.16
11	若い日の原石鼎 4	碧雲会入会と『くさぶえ』『山陰新聞への投句 (明治三十八年自記年譜の虚実)		H12.2.20
12	若い日の原石鼎 5	明治三十八年春から四十一年春〈京都医専〉入学まで ・石鼎への改号 ・置き土産の作文		H12.3.19
13	若い日の原石鼎 6	・東吉野村に石鼎庵を訪ねる ・京都医専時代－歌人〈原ひぐらし〉など		H12.4.16
14	若い日の原石鼎 7	・出雲市上塩冶に石鼎生家を訪ねる ・初めての上京－須藤鐘一宅への居候－放浪生活		H12.5.21
15	森鷗外を巡る人々 1	・詩－「筆」「鈕扣」 ・二人の先人－西周、福羽美静		H12.6.18

回数	タイトル	副題	シリーズ名	開催日
16	森鷗外を巡る人々 2	・二人の先人－西周、福羽美静		H12.7.16
17	森鷗外を巡る人々 3	校正の神様－神代帚葉		H12.8.20
18	森鷗外を巡る人々 4	弟妹 喜美子・篤次郎・潤三郎		H12.9.17
19	森鷗外を巡る人々 5	女性たち（1）「半日」の奥さん〈しげ〉 TVドラマ「玉は砕けず」		H12.10.15
20	森鷗外を巡る人々 6	女性たち（1）「半日」の奥さん〈しげ〉2 森しげ「波瀾」		H12.11.19
21	森鷗外を巡る人々 7	女性たち（2）「雁」の〈お玉〉 隠し妻〈児玉せき〉		H12.12.17
22	森鷗外を巡る人々 8	子どもたち 於菟・茉莉・杏奴・類		H13.1.21
23	森鷗外を巡る人々 9	もう一人の鷗外		H13.2.18
24	森鷗外を巡る人々 10	石見人 森林太郎		H13.3.18
25	山陰路を歩いた文人たち 1	徳富蘆花〈日本海づたひ〉		H13.4.15
26	山陰路を歩いた文人たち 2	久保天随〈出雲の北辺〉		H13.5.20
27	山陰路を歩いた文人たち 3	久保天随〈出雲の北辺〉（続）、塩井雨江・大町桂月		H13.6.17
28	山陰路を歩いた文人たち 4	塩井雨江「小田の里の一日」		H13.7.15
29	山陰路を歩いた文人たち 5	大町桂月「出雲雑感」より		H13.8.19
30	山陰路を歩いた文人たち 6	大町桂月「簸の川上」を読む		H13.9.16
31	河東碧梧桐『続三千里』の旅 1	竹内映紫楼との出会い	山陰路を歩いた文人たち（7）	H13.11.18

回数	タイトル	副題	シリーズ名	開催日
32	河東碧梧桐『続三千里』の旅 2	広江八重桜邸〈蚕豆庵〉での逗留・越年	山陰路を歩いた文人たち (8)	H13.12.16
33	田山花袋の来遊 1	「落日の穴道湖」を読む	山陰路を歩いた文人たち (9)	H14.1.27
34	田山花袋の来遊 2	「落日の穴道湖」を読む (続き)	山陰路を歩いた文人たち (10)	H14.2.17
35	田山花袋の来遊 3	「山水小記」を読む	山陰路を歩いた文人たち (11)	H14.3.17
36	木下利玄の山陰大旅行 1	歌集『紅玉』『一路』を読む	山陰路を歩いた文人たち (12)	H14.4.21
37	木下利玄の山陰大旅行 2	歌集『紅玉』『一路』を読む	山陰路を歩いた文人たち (13)	H14.5.19
38	島崎藤村「山陰土産」の旅 1	「出雲浦海岸」「穴道湖の旅情」他	山陰路を歩いた文人たち (14)	H14.6.16
39	島崎藤村「山陰土産」の旅 2	「雪舟の遺跡」「津和野まで」他	山陰路を歩いた文人たち (15)	H14.7.21
40	与謝野鉄幹・晶子の山陰旅行 1	晶子「山陰遊記」他	山陰路を歩いた文人たち (16)	H14.8.18
41	与謝野鉄幹・晶子の山陰旅行 2	晶子「山陰遊記」他	山陰路を歩いた文人たち (17)	H14.9.22
42	斎藤茂吉の人麻呂探求 1	「手帳の記」他	山陰路を歩いた文人たち (18)	H14.10.27
43	斎藤茂吉の人麻呂探求 2	歌集「白桃」「寒雷」	山陰路を歩いた文人たち (19)	H14.11.17
44	斎藤茂吉の人麻呂探求 3	歌集「白桃」「鴨山踏査録」「鴨山考」	山陰路を歩いた文人たち (20)	H14.12.15
45	斎藤茂吉の人麻呂探求 4	歌集「寒雲」「鴨山後考」・他	山陰路を歩いた文人たち (21)	H15.1.26
46	田畑修一郎の見た故郷 1	生い立ち・「鳥羽家の子供」	山陰路を歩いた文人たち (22)	H15.2.16
47	田畑修一郎の見た故郷 2	新風土記「出雲・石見」	山陰路を歩いた文人たち (23)	H15.3.16

回数	タイトル	副題	シリーズ名	開催日
48	島根出身の作家たち	活躍中の文人の紹介 1 詩人 郷原宏	現役作家の作品を読む (1)	H15.4.20
49	難波利三の描く人物 1	「イルティッシュ号の来た日」の〈弥吉〉	現役作家の作品を読む (2)	H15.5.18
50	難波利三の描く人物 2	「イルティッシュ号の来た日」の〈弥吉〉その二	現役作家の作品を読む (3)	H15.6.15
51	難波利三の描く人物 3	「車夫一代」の〈岩吉〉	現役作家の作品を読む (4)	H15.7.20
52	佐藤洋二郎の文学世界 1	「前へ、進め」・大人への成長物語	現役作家の作品を読む (5)	H15.8.17
53	佐藤洋二郎の文学世界 2	『神名火』『湯抱』の章	現役作家の作品を読む (6)	H15.9.21
54	長谷川摂子のファンタジー	「人形の旅立ち」「椿の庭」	現役作家の作品を読む (7)	H15.10.19
55	松本侑子のとらえた出雲	『美しい雲の国』を読む	現役作家の作品を読む (8)	H15.11.16
56	石田登「血族団欒」を読む	愛憎の深淵にメスを入れる郷土作家	現役作家の作品を読む (9)	H15.12.21
57	塩見佐恵子「津和野の鷺」を読む	一図に生きる女性の内奥を抉る郷土作家	現役作家の作品を読む (10)	H16.1.18
58	野津決「鉛の華」を読む	海の仕事に自らを投げ込む若者	現役作家の作品を読む (11)	H16.2.15
59	詩人入沢康夫における〈出雲〉	『わが出雲・わが鎮魂』『死者たちの群がる風景』	現役作家の作品を読む (12)	H16.3.21
60	三浦浩『津和野物語』を読む 1	〈田津子の章〉のふしぎな魅力	しまねの風土が生んだ名作 (1)	H16.4.18
61	三浦浩『津和野物語』を読む 2	〈田津子の章〉・〈葉津子の章〉	しまねの風土が生んだ名作 (2)	H16.5.16
62	三浦浩『津和野物語』を読む 3	純朴なヒロイン路子・津和野から東京へ	しまねの風土が生んだ名作 (3)	H16.6.20
63	三浦浩『津和野物語』を読む 4	試練に耐えて生きる路子・東京から津和野	しまねの風土が生んだ名作 (4)	H16.7.18

回数	タイトル	副題	シリーズ名	開催日
64	水上勉の描く妙好人浅原才市 1	「桐下駄の話」・日原の相撲ケ原の下駄職人木谷宇助	しまねの風土が生んだ名作 (5)	H16.8.22
65	水上勉の描く妙好人浅原才市 2	「才市」、その前半生 父・奉公・結婚・長年の出稼ぎ・受戒・帰郷	しまねの風土が生んだ名作 (6)	H16.9.19
66	水上勉の描く妙好人浅原才市 3	「才市」、その前半生 (続) 父・奉公・結婚・長年の出稼ぎ・受戒・帰郷	しまねの風土が生んだ名作 (7)	H16.10.17
67	水上勉の描く妙好人浅原才市 4	「才市」、その後半生 帰郷・下駄職人・口あい・往生	しまねの風土が生んだ名作 (8)	H16.11.21
68	水上勉「波の暦」を読む	長編物語のもう一つの舞台、女優〈節子〉の生母の眠る芦尾	しまねの風土が生んだ名作 (9)	H16.12.19
69	中里恒子「置き文」を読む 1	隠岐を去る母の置き手紙	しまねの風土が生んだ名作 (10)	H17.1.16
70	中里恒子「置き文」を読む 2	隠岐に留まる娘の生き方	しまねの風土が生んだ名作 (11)	H17.2.20
71	加藤楸邨の隠岐行	紀行『隠岐』・句集『雪後の天』	しまねの風土が生んだ名作 (12)	H17.3.13
72	村松友視のとらえた異界「出雲」 1	『時代屋の女房 怪談篇』を読む 1	しまねの風土が生んだ名作 (13)	H17.4.17
73	村松友視のとらえた異界「出雲」 2	『時代屋の女房 怪談篇』を読む 2	しまねの風土が生んだ名作 (14)	H17.5.22
74	村松友視のとらえた異界「出雲」 3	『時代屋の女房 怪談篇』を読む 3	しまねの風土が生んだ名作 (15)	H17.6.19
75	駒田信二「狐の子」を読む 1	〈場末の匂い〉のする松江の繁華街	しまねの風土が生んだ名作 (16)	H17.7.17
76	駒田信二「狐の子」を読む 2	〈古い町の伝統〉・俗信を越えるもの	しまねの風土が生んだ名作 (17)	H17.8.21
77	開高健、〈松江〉を堪能する	「新しい天体」を読む	しまねの風土が生んだ名作 (18)	H17.9.18
78	芝木好子「山陰の人」を読む 1	浜緋の織元の娘直子に見る山陰の女性像	しまねの風土が生んだ名作 (19)	H17.10.16
79	芝木好子「山陰の人」を読む 2	冬の松江の感触・付「三隅の桜」	しまねの風土が生んだ名作 (20)	H17.11.20

回数	タイトル	副題	シリーズ名	開催日
80	宇野千代の語る愛のかたち 1	「八重山の雪」 (前半) を読む	しまねの風土が生んだ名作 (21)	H17.12.18
81	宇野千代の語る愛のかたち 2	「八重山の雪」 (二) ひとときの幸せ	しまねの風土が生んだ名作 (22)	H18.1.15
82	田辺聖子「いま何時？」を読む 1	「いま何時？」 (一) 山陰路のアバンチュール 「八重山の雪」 (三) 別離	しまねの風土が生んだ名作 (23)	H18.2.19
83	田辺聖子「いま何時？」を読む 2	「いま何時？」 (二) 加賀の潜戸に誘った男	しまねの風土が生んだ名作 (24)	H18.3.19
84	高樹のぶ子の描く人間模様 1	「虹の交響」 「斐伊川」の章	しまねの風土が生んだ名作 (25)	H18.4.16
85	高樹のぶ子の描く人間模様 2	「虹の交響」 「斐伊川」の章〈続〉 「野をわたる風」	しまねの風土が生んだ名作 (26)	H18.5.21
86	高樹のぶ子の描く人間模様 3	「虹の交響」 「野をわたる風」〈続〉	しまねの風土が生んだ名作 (27)	H18.6.18
87	阿部知二「雲の国」を読む 1	序・追憶 1	しまねの風土が生んだ名作 (28)	H18.7.16
88	阿部知二「雲の国」を読む 2	追憶 2・追憶 3	しまねの風土が生んだ名作 (29)	H18.8.20
89	阿部知二「雲の国」を読む 3	追憶 4・終章	しまねの風土が生んだ名作 (30)	H18.9.17
90	阿部知二「雲の国」を読む 4	終章・自伝小説「かげ」 (抄)	しまねの風土が生んだ名作 (31)	H18.10.15
91	里見弴「或る年の初夏に」 1	志賀直哉との松江滞在	しまねの風土が生んだ名作 (32)	H18.11.19
92	里見弴「或る年の初夏に」 2	松江の生活 宍道湖での舟遊び・加賀行・他	しまねの風土が生んだ名作 (33)	H18.12.17
93	里見弴「或る年の初夏に」 3	〈幸橋〉上での格闘・弴の離松と志賀の雨中疾行	しまねの風土が生んだ名作 (34)	H19.1.21
94	里見弴「今年竹」を読む 1	「濠治の家」とそれまでの梗概	しまねの風土が生んだ名作 (35)	H19.2.18
95	里見弴「今年竹」を読む 2	「濠治の家」での出会いへ	しまねの風土が生んだ名作 (36)	H19.3.18

回数	タイトル	副題	シリーズ名	開催日
96	釋瓢齋「雲石を語る」を読む 1	「俗つれづれ」・毒舌家の郷土論	エッセイ・島根に生れて (1)	H19.4.15
97	釋瓢齋「雲石を語る」を読む 2	「雲石を語る」 (続) ・出雲と石見	エッセイ・島根に生れて (2)	H19.5.20
98	釋瓢齋「冬の山陰旅行」を読む	「お加代地蔵」建立に見る出雲人論	エッセイ・島根に生れて (3)	H19.6.17
99	徳川夢聲の帰郷 1	『自伝 夢聲漫筆 明治篇』を読む	エッセイ・島根に生れて (4)	H19.7.15
100	徳川夢聲の帰郷 2	『吾家の過去帖』・『自伝夢聲漫筆 明治篇』 (続) ・付 伊沢蘭奢について	エッセイ・島根に生れて (5)	H19.8.19
101	安部宙之介の誌的空間 1	「蛙石」 (『水の聲』より、前半) ・「或る自伝」	エッセイ・島根に生れて (6)	H19.9.16
102	安部宙之介の誌的空間 2	「蛙石」 (『水の聲』より、後半) ・「或る自伝」 (続)	エッセイ・島根に生れて (7)	H19.10.21
103	河井寛次郎の原郷 1	随筆集『火の誓ひ』より 「町の景物」	エッセイ・島根に生れて (8)	H19.11.18
104	河井寛次郎の原郷 2	随筆集『六十年前の今』より 「町の皿山」他	エッセイ・島根に生れて (9)	H19.12.16
105	芦田伸介における松江	随筆集『ほろにがき日々』より 「望郷の年」 『歩いて走ってとまるとき』より 「松江」	エッセイ・島根に生れて (10)	H20.1.20
106	高橋玄洋・記憶の底の松江 1	随筆集『興味津々』より 「湖岸の残照」「灯を掬う」	エッセイ・島根に生れて (11)	H20.2.17
107	高橋玄洋・記憶の底の松江 2	随筆「私の昭和・出会った人々」「元旦の雪の記憶」	エッセイ・島根に生れて (12)	H20.3.16
108	岡本太郎のとらえた「山陰」 1	紀行『日本再発見—芸術風土記』 「出雲」	エッセイ・島根路での出会い (1) (テキストにはエッセイ・島根に生れて (13) と表記)	H20.4.20
109	岡本太郎のとらえた「山陰」 2	紀行『日本再発見—芸術風土記』 「出雲」 (続き)	エッセイ・島根路での出会い (2)	H20.5.18
110	岡本太郎のとらえた「山陰」 3	(付) 岡本かの子「思ひ出の町」を読む	エッセイ・島根路での出会い (3)	H20.6.15
111	古谷綱武の愛した漁村 1	『美しき日本』より「出雲の漁村にて」を読む	エッセイ・島根路での出会い (4)	H20.7.20

回数	タイトル	副題	シリーズ名	開催日
112	古谷綱武の愛した漁村 2	『美しき日本』より「村の生活」「ともすけ餅の話」を読む	エッセイ・島根路での出会い (5)	H20.8.17
113	内田百閒、魔界松江の旅 1	『第三阿房列車』より「菅田庵の狐 松江阿房列車」を読む	エッセイ・島根路での出会い (6)	H20.9.21
114	内田百閒、魔界松江の旅2	『第三阿房列車』より「菅田庵の狐 松江阿房列車」を読む 2	エッセイ・島根路での出会い (7)	H20.10.19
115	五木寛之、津和野・松江を歩く 1	『ゴキブリの歌』より「津和野の町のミニ」を読む	エッセイ・島根路での出会い (8)	H20.11.16
116	五木寛之、津和野・松江を歩く 2	『地図のない旅』より「松江の女」を読む	エッセイ・島根路での出会い (9)	H20.12.21
117	山口瞳『迷惑旅行』の隠岐行 1	「隠岐の島、西郷町中村湾」(前半)	エッセイ・島根路での出会い (10)	H21.1.18
118	山口瞳『迷惑旅行』の隠岐行 2	「隠岐の島、西郷町中村湾」(後半) 「雷霆穴道湖」(抜粋)	エッセイ・島根路での出会い (11)	H21.2.15
119	田村隆一 隠岐賛美の旅 1	『詩人の旅』より「隠岐」(前半)	エッセイ・島根路での出会い (12)	H21.3.15
120	田村隆一 隠岐賛美の旅 2	『詩人の旅』より「隠岐」(後半)	エッセイ・島根路での出会い (13)	H21.4.19
121	塚本邦雄の神話的世界 1	「八雲半島」を読む(前半)	島根の人物ものがたり (1)	H21.5.17
122	塚本邦雄の神話的世界 2	「八雲半島」を読む(後半)	島根の人物ものがたり (2)	H21.6.21
123	石川淳 畸人小林如泥を探る 1	『諸国畸人伝』より「小林如泥」を読む(前半)	島根の人物ものがたり (3)	H21.7.19
124	石川淳 畸人小林如泥を探る 2	『諸国畸人伝』より「小林如泥」を読む(後半)	島根の人物ものがたり (4)	H21.8.16
125	伊原青々園作「出雲の阿国」 1	〈出雲の阿国〉をめぐって (1) 伊原青々園 (一)	島根の人物ものがたり (5)	H21.9.20
126	伊原青々園作「出雲の阿国」 2	〈出雲の阿国〉をめぐって (1) 伊原青々園 (二)	島根の人物ものがたり (6)	H21.10.18
127	伊原青々園作「出雲の阿国」 3	〈出雲の阿国〉をめぐって (1) 伊原青々園 (三)	島根の人物ものがたり (7)	H21.11.15

回数	タイトル	副題	シリーズ名	開催日
128	有吉佐和子作「出雲の阿国」 1	〈出雲の阿国〉をめぐって（2） 有吉佐和子（一）	島根の人物ものがたり（8）	H21.12.20
129	有吉佐和子作「出雲の阿国」 2	〈出雲の阿国〉をめぐって（2） 有吉佐和子（二）	島根の人物ものがたり（9）	H22.1.17
130	有吉佐和子作「出雲の阿国」 3	〈出雲の阿国〉をめぐって（2） 有吉佐和子（三）	島根の人物ものがたり（10）	H22.2.21
131	有吉佐和子作「出雲の阿国」 4	〈出雲の阿国〉をめぐって（2） 有吉佐和子（四）	島根の人物ものがたり（11）	H22.3.21
132	有吉佐和子作「出雲の阿国」 5	〈出雲の阿国〉をめぐって（2） 有吉佐和子（五）	島根の人物ものがたり（12）	H22.4.18
133	安西篤子作「愛染灯籠」を読む 1	「過去」～「蛍」の章・安西篤子（1）	島根の人物ものがたり（13）	H22.5.16
134	安西篤子作「愛染灯籠」を読む 2	「縁談」～「何処へ」の章・安西篤子（2）	島根の人物ものがたり（14）	H22.6.20
135	安西篤子作「愛染灯籠」を読む 3	「別れ」～「高麗橋」の章・安西篤子（3）	島根の人物ものがたり（15）	H22.7.18
136	安西篤子作「愛染灯籠」を読む 4	桃好裕「出雲私史」、御徒一切事記」、 近松門左衛門「槍の権三重帷子」・安西篤子（4）	島根の人物ものがたり（16）	H22.8.22
137	遠藤周作「最後の殉教者」を読む 1	「最後の殉教者」〈前半〉	島根人物ものがたり（17・県外人物篇）	H22.9.19
138	遠藤周作「最後の殉教者」を読む 2	「最後の殉教者」〈後半〉	島根人物ものがたり（18・県外人物篇）	H22.10.17
139	夏樹静子「女優X 伊沢蘭奢の生涯」を読む 1	「第一章 山峡のノラ」	島根人物ものがたり（19）	H22.11.21
140	夏樹静子「女優X 伊沢蘭奢の生涯」を読む 2	「第二章 晩成の花」	島根人物ものがたり（20）	H22.12.19
141	夏樹静子「女優X 伊沢蘭奢の生涯」を読む 3	「第三章 マダムX」（前半）	島根人物ものがたり（21）	H23.1.16
142	夏樹静子「女優X 伊沢蘭奢の生涯」を読む 4	「第三章 マダムX」（後半）	島根人物ものがたり（22）	H23.2.20
143	記憶の深淵 「石鼎窟夜話」	「母のふところ」「寝ざめごと」	島根人物ものがたり（23）	H23.3.20

回数	タイトル	副題	シリーズ名	開催日
144	森鷗外「半日」を読む 1	略伝・森家系譜・「半日」を読む	森鷗外とその子どもたち (1)	H23.4.17
145	森鷗外「半日」を読む 2	「半日」を読む (その二)	森鷗外とその子どもたち (2)	H23.5.15
146	森於菟「鷗外の母」を読む	森於菟「鷗外の母」・山崎國紀編「森鷗外・母の日記」	森鷗外とその子どもたち (3)	H23.6.19
147	森茉莉「靴の音」・他を読む	森茉莉「凱旋－靴の音」・「半日」・「幼い日々」	森鷗外とその子どもたち (4)	H23.7.17
148	森杏奴「鷗外の妻」・他を読む	森杏奴「鷗外の妻」・「晩年の父」	森鷗外とその子どもたち (5)	H23.8.21
149	森類「森家の人びと」を読む	森類「不肖の子」・「父の笑顔」「父」・他	森鷗外とその子どもたち (6)	H23.10.16
150	森鷗外「雁」を読む 1	「雁」 壹 (第一章) ～ 漆 (第七章)	森鷗外とその子どもたち (7)	H23.11.20
151	森鷗外「雁」を読む 2	捌 (第八章) ～ 拾壹 (第十一章)	森鷗外とその子どもたち (8)	H23.12.18
152	森鷗外「雁」を読む 3	拾貳 (第十二章) ～ 拾漆 (第十七章)	森鷗外とその子どもたち (9)	H24.1.15
153	森鷗外「雁」を読む 4	拾捌 (第十八章) ～ 貳拾壱 (第二十一章)	森鷗外とその子どもたち (10)	H24.2.19
154	森鷗外「雁」を読む 5	貳拾貳 (第二十二章) ～ 貳拾肆 (第二十四章)	森鷗外とその子どもたち (11)	H24.3.18
155	森鷗外「雁」のモデルをめぐって	森於菟「鷗外の隠し妻」・他	森鷗外とその子どもたち (12)	H24.4.15
156	森しげ「波瀾」を読む		森鷗外とその子どもたち (13)	H24.5.20
157	森鷗外「阿部一族」を読む 1	内藤長十郎の場合	森鷗外とその子どもたち (14)	H24.6.17
158	森鷗外「阿部一族」を読む 2	津崎五助の場合・阿部彌一右衛門の場合	森鷗外とその子どもたち (15)	H24.7.15
159	森鷗外「阿部一族」を読む 3	竹内数馬の場合・柄本又七郎の場合	森鷗外とその子どもたち (16)	H24.8.19

回数	タイトル	副題	シリーズ名	開催日
160	森鷗外「最後の一句」を読む 1	桂屋太郎兵衛の処刑と妻、子供たち	森鷗外とその子どもたち（17）	H24.9.16
161	森鷗外「最後の一句」を読む 2	典拠と創作、作品のねらい	森鷗外とその子どもたち（18）	H24.10.21
162	森鷗外「遺言状」を読む	「余ハ石見人森林太郎トシテ死セント欲ス」の意味するもの	森鷗外とその子どもたち（19）	H24.11.18
163	阿刀田高「分水嶺」を読む 1		続・しまねの風土が生んだ名作（1）	H24.12.16
164	阿刀田高「分水嶺」を読む 2		続・しまねの風土が生んだ名作（2）	H25.1.20
165	内海隆一郎「夜行列車」を読む		続・しまねの風土が生んだ名作（3）	H25.2.17
166	内海隆一郎「鰻のたたき」を読む 1		続・しまねの風土が生んだ名作（4）	H25.3.17
167	内海隆一郎「鰻のたたき」を読む 2		続・しまねの風土が生んだ名作（5）	H25.4.21
168	芝木好子「変身」を読む 1		続・しまねの風土が生んだ名作（6）	H25.5.19
169	芝木好子「変身」を読む 2	友人京子の見た出雲に暮らす雅子	続・しまねの風土が生んだ名作（7）	H25.6.16
170	芝木好子「変身」を読む 3	〈変身〉したもの、させたもの	続・しまねの風土が生んだ名作（8）	H25.7.21
171	木辺弘児「少年の火」を読む 1	異界奥出雲に住む謎多き旧友	続・しまねの風土が生んだ名作（9）	H25.8.18
172	木辺弘児「少年の火」を読む 2	大阪に来た八代と中学校跡を訪ねる	続・しまねの風土が生んだ名作（10）	H25.9.15
173	木辺弘児「少年の火」を読む 3	なぜ八代は奥出雲に来たのか 解けない謎	続・しまねの風土が生んだ名作（11）	H25.10.20
174	井上靖「通夜の客」を読む 1	故新津礼作の通夜の女客、「水島きよ」とは	雲泊の風土と文学（1）	H25.11.10
175	井上靖「通夜の客」を読む 2	書簡体「水島きよ」の手記	雲泊の風土と文学（2）	H26.1.19

回数	タイトル	副題	シリーズ名	開催日
176	井上靖「通夜の客」を読む 3	「水島きよ」における「浮気」の本質	雲泊の風土と文学 (3)	H26.2.16
177	松本清張「父系の指」を読む 1	「私」が幼少時の父 一～三	雲泊の風土と文学 (4)	H26.3.16
178	松本清張「父系の指」を読む 2	「私」が少年から青年時の父 四～六	雲泊の風土と文学 (5)	H26.4.20
179	松本清張「父系の指」を読む 3	二十年後、八戸を訪ねた「私」、七～八	雲泊の風土と文学 (6)	H26.5.18
180	松本清張「父系の指」を読む 4	東京田園調布の西田民治邸を訪ねた「私」 九～十	雲泊の風土と文学 (7)	H26.6.15
181	塩見佐恵子「一式飾り」を読む 1	冬の山陰の田舎町に招いた東京の男友達	雲泊の風土と文学 (8)	H26.7.20
182	塩見佐恵子「一式飾り」を読む 2	聡子と中沢の関わり方・姉千里の登場	雲泊の風土と文学 (9)	H26.8.17
183	塩見佐恵子「一式飾り」を読む 3	一式飾りを見終えた夜	雲泊の風土と文学 (10)	H26.9.21
184	大江賢次「絶唱」を読む 1	孤立する富豪の息子園田順吉	雲泊の風土と文学 (11)	H26.10.19
185	大江賢次「絶唱」を読む 2	4～13節 園田順吉の小説「山鳩」	雲泊の風土と文学 (12)	H26.11.16
186	大江賢次「絶唱」を読む 3	第二章 湖畔の記録 1～5節 松江での新婚生活、そして	雲泊の風土と文学 (13)	H26.12.21
187	大江賢次「絶唱」を読む 4	第二章 湖畔の記録 6～13節 小雪の生き方と大谷たち	雲泊の風土と文学 (14)	H27.1.18
188	大江賢次「絶唱」を読む 5	第三章 葬婚歌 1～9節 順吉の復員と小雪の死	雲泊の風土と文学 (15)	H27.2.15
189	大江賢次「絶唱」を読む 6	第三章 葬婚歌 10～14節 小雪の送葬と順吉の小説「挽歌」	雲泊の風土と文学 (16)	H27.3.15
190	松本清張「暗線」を読む 1	古代染色研究家三浦健庸先生への書簡 1、2節 「私」の父黒井利一の誕生とその後	雲泊の風土と文学 (17)	H27.4.19
191	松本清張「暗線」を読む 2	古代染色研究家三浦健庸先生への書簡 3節 4節（前半） 屋神村を訪ねた私は、三浦健亮博士について知る	雲泊の風土と文学 (18)	H27.5.17

回数	タイトル	副題	シリーズ名	開催日
192	松本清張「暗線」を読む 3	古代染色研究家三浦健庸先生への書簡 4 節（後半） 屋神村から帰った〈私〉が突き止めたもの、この書簡のねらい	雲泊の風土と文学（19）	H27.6.21
193	司馬遼太郎「街道を行く」を読む 1	長州路「津和野から益田へ」	石見路の自然とひと（1）	H27.7.26
194	司馬遼太郎「街道を行く」を読む 2	砂鉄のみち「森を慕う韓鍛冶」（奥出雲鳥上工場を訪ねる）	石見路の自然とひと（2）	H27.8.16
195	田宮虎彦「親三瓶」を読む 1	作品集『姫百合』より 父刀根俊秀と娘知子	石見路の自然とひと（3）	H27.9.20
196	田宮虎彦「親三瓶」を読む 2	父の気持ちと娘の涙 （付）『隠岐案内（抄）』	石見路の自然とひと（4）	H27.10.18
197	池波正太郎「力婦伝」を読む 1	「体格偉大」な女性の選んだ道	石見路の自然とひと（5）	H27.11.15
198	池波正太郎「力婦伝」を読む 2	〈さつ〉の結婚・作者の女性観	石見路の自然とひと（6）	H27.12.20
199	難波利三「夏の昀」を読む 1	〈藤川キク〉の生きざま・過去と現在	石見路の自然とひと（7）	H28.1.17
200	難波利三「夏の昀」を読む 2		石見路の自然とひと（8）	H28.2.21
201	難波利三「夏の昀」を読む 3	「かつぎ」の生活の喜びと悲しみ・キクノの人物像	石見路の自然とひと（9）	H28.3.20
202	小堀杏奴「父のふるさと」を読む	杏奴が津和野で出会ったもの	石見路の自然とひと（10）	H28.4.17
203	立原正秋「津和野」を読む	鷗外ら多くの逸材はなぜ帰らなかったか	石見路の自然とひと（11）	H28.5.15
204	中野重治「角力取ろうの国」を読む 1	生きて帰った会津屋清助	石見路の自然とひと（12）	H28.6.19
205	中野重治「角力取ろうの国」を読む 2	「会津屋の浦島太郎は嘘こきか」	石見路の自然とひと（13）	H28.7.17
206	村上元三「浜田騒動」を読む 1	「三人の男」「浜田の町」「同志談合」	石見路の自然とひと（14）	H28.8.21
207	村上元三「浜田騒動」を読む 2	「新しい味方」「旗挙げの用意」「暴動」	石見路の自然とひと（15）	H28.9.18

回数	タイトル	副題	シリーズ名	開催日
208	村上元三「浜田騒動」を読む 3	「血盟帖」「戦う相手」「残雪」	石見路の自然とひと（16）	H28.10.16
209	杉本苑子「終焉」を読む 1	井戸平左衛門、江戸出立まで	石見路の自然とひと（17）	H28.11.20
210	杉本苑子「終焉」を読む 2	井戸平左衛門、大森代官所に到着	石見路の自然とひと（18）	H28.12.18
211	杉本苑子「終焉」を読む 3	新代官と富商連中との関係・新代官に惹かれる伊達金三郎	石見路の自然とひと（19）	H29.1.15
212	杉本苑子「終焉」を読む 4	勘弁金千両の出所・薩摩に赴いた伊達金三郎たち	石見路の自然とひと（20）	H29.3.19
213	杉本苑子「終焉」を読む 5	伊達金三郎の造形・井戸平左衛門の人間像	石見路の自然とひと（21）	H29.4.16
214	田畑修一郎「出雲・石見」を読む 1	石見篇「石見の歌」 石見の特質は何か	石見路の自然とひと（22）	H29.5.21
215	田畑修一郎「出雲・石見」を読む 2	石見篇「石見の文化的要素」 石見人田畑の石見観	石見路の自然とひと（23）	H29.6.18
216	田畑修一郎「出雲・石見」を読む 3	石見篇「石見赤瓦と粗陶器」「石見半紙」に見たもの	石見路の自然とひと（24）	H29.7.16
217	田畑修一郎「出雲・石見」を読む 4	雪舟や人麻呂が親しんだ「詩に近い石見」とは	石見路の自然とひと（25）	H29.8.24
218	田畑修一郎「林檎樹と猫」を読む	田畑文学の誕生を告げる作・「鳥羽家の子供」の第一稿	石見路の自然とひと（26）	H29.9.17
219	田畑修一郎「續 狐の子」を読む 1	「鳥羽家の子供」の続編・養母との確執から脱皮する中口卯平	石見路の自然とひと（27）	H29.11.19
220	田畑修一郎「續 狐の子」を読む 2	厚子との関係の行方・ストーリーの変化・自伝的小説の特色	石見路の自然とひと（28）	H29.12.17
221	大町桂月「断魚溪」を読む 1	美文集『一蓑一笠』に収めた石見の自然探訪	石見路の自然とひと（29）	H30.1.21
222	大町桂月「断魚溪」を読む 2	・「断魚溪」を世に現はさむとした野田慎翁 ・久保天随の「断魚溪」	石見路の自然とひと（30）	H30.2.18
223	塩井雨江「帰京の記」を読む 1	桂月の「断魚溪」の文章との違い ・帰京の理由は何か？	石見路の自然とひと（31）（補1）	H30.3.18

回数	タイトル	副題	シリーズ名	開催日
224	塩井雨江「帰京の記」を読む 2	山陰の旅から帰京の旅へ ・師弟の関係の密度	石見路の自然とひと（32）（補2）	H30.4.15
225	井上靖「河井寛次郎のこと」	陶工・河井寛次郎の人と仕事	島根の文人を語る（1）	H30.5.20
226	河井寛次郎「火の誓い」・他	河井寛次郎「この世このまま大調和」 河井須也子「不忘の記」 寿岳文章「河井寛次郎素描」	島根の文人を語る（2）	H30.6.17
227	習作時代の原石鼎	新聞の調査でわかったこと	50周年記念 リレー文化講座	H30.7.15
228	「サクラ読本」の編者・井上赳の生涯 1	藤富康子著『サイタ サイタ サクラガサイタ』を読む	島根の文人を語る（3）井上赳（1）	H30.8.29
229	「サクラ読本」の編者・井上赳の生涯 2	藤富康子著『サイタ サイタ サクラガサイタ』を読む	島根の文人を語る（4）井上赳（2）	H30.9.16
230	「サクラ読本」の編者・井上赳の生涯 3	藤富康子著『サイタ サイタ サクラガサイタ』を読む	島根の文人を語る（5）井上赳（3）	H30.10.21
231	「サクラ読本」の編者・井上赳の生涯 4	藤富康子著『サイタ サイタ サクラガサイタ』を読む	島根の文人を語る（6）井上赳（4）	H30.12.16
232	詩を書き抜いた詩人・千家元麿 1	室生犀星著『我が愛する詩人の傳記』を読む	島根の文人を語る（7）千家元麿（1）	H31.1.20
233	詩を書き抜いた詩人・千家元麿 2	室生犀星著『我が愛する詩人の傳記』を読む	島根の文人を語る（8）千家元麿（2）	H31.2.17
234	詩を書き抜いた詩人・千家元麿 3	千家元麿長篇叙事詩『昔の家』を読む	島根の文人を語る（9）千家元麿（3）	H31.3.17
235	詩を書き抜いた詩人・千家元麿 4	千家潔（父元麿の次男）の『晩年』を読む	島根の文人を語る（10）千家元麿（4）	H31.4.20
236	文豪森鷗外の人物像 1	小島政二郎の『森鷗外』を読む	島根の文人を語る（11）森鷗外（1）	R1.5.19
237	文豪森鷗外の人物像 2	小島政二郎の『森鷗外』を読む	島根の文人を語る（12）森鷗外（2）	R1.6.16
238	文豪森鷗外の人物像 3	小島政二郎の『森鷗外』を読む	島根の文人を語る（13）森鷗外（3）	R1.7.21
239	文豪森鷗外の人物像 4	山崎正和の『鷗外闘う家長』を読む	島根の文人を語る（14）森鷗外（4）	R1.8.18

回数	タイトル	副題	シリーズ名	開催日
240	文豪森鷗外の人物像 5	松本清張の『両像 森鷗外』を読む	島根の文人を語る (15) 森鷗外 (5)	R1.9.15
241	芥川龍之介・井川恭の生い立ちと出会い	関口安義『芥川龍之介』(岩波新書)	芥川龍之介の松江体験 (1)	R1.10.20
242	失意の芥川、心友井川恭への手紙	関口安義『芥川龍之介とその時代』(筑摩書房)	芥川龍之介の松江体験 (2)	R1.11.17
243	芥川龍之介の松江来遊前夜	関口安義『芥川龍之介とその時代』(筑摩書房)	芥川龍之介の松江体験 (3)	R1.12.25
244	井川恭『翡翠記』とその構成	井川恭『思い出の松江：人と人物』(『島根県人』No.9・10) 井川恭著『翡翠記』(島根国語国文学会)	芥川龍之介の松江体験 (4)	R2.1.19
245	芥川龍之介『松江印象記』と井川恭『翡翠記』 1	井川恭著『翡翠記』(寺本喜徳編・島根国語国文学会・平成四年 (一九九二) 四月刊)	芥川龍之介の松江体験 (5)	R2.2.16
246	芥川龍之介『松江印象記』と井川恭『翡翠記』 2	井川恭著『翡翠記』(寺本喜徳編・島根国語国文学会・平成四年四 月刊)	芥川龍之介の松江体験 (6)	R2.7.19
247	眞山に登った芥川龍之介	井川恭著『翡翠記』(寺本喜徳編・島根国語国文学会・平成四年四 月刊)	芥川龍之介の松江体験 (7)	R2.8.16
248	「松江連句」の逍遙世界	「翡翠記」と「松江連句」	芥川龍之介の松江体験 (8)	R2.9.20
249	井川恭「松江美論」を読む		松江の美を探る(1)	R2.10.18
250	井川恭「松江美論」を読む 2		松江の美を探る(2)	R2.11.15
251	松江に住んだ評論家山本健吉 俳人 石橋秀野 1		松江の美を探る(3)	R2.12.20
252	松江に住んだ評論家山本健吉 俳人 石橋秀野 2	山本安見子「石橋秀野の一〇〇句を読む」を読む	松江の美を探る(4)	R3.1.17
253	松江に住んだ評論家山本健吉 俳人 石橋秀野 3	松江に於ける山本健吉	松江の美を探る(5)	R3.2.21
254	松江に住んだ評論家山本健吉 俳人 石橋秀野 4	文芸誌『雲』を創刊した山本健吉	松江の美を探る(6)	R3.3.21